

予報期間 9月30日から10月6日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第26号については最新の台風予報を参照。
- 10月2日は、発達した低気圧がオホーツク海に進む。高気圧が朝鮮半島付近へ移動する。
- 3日は、高気圧が日本海に移動し、低気圧が華北付近に進む。
- 4日から6日にかけて、低気圧が日本海からオホーツク海に進む。

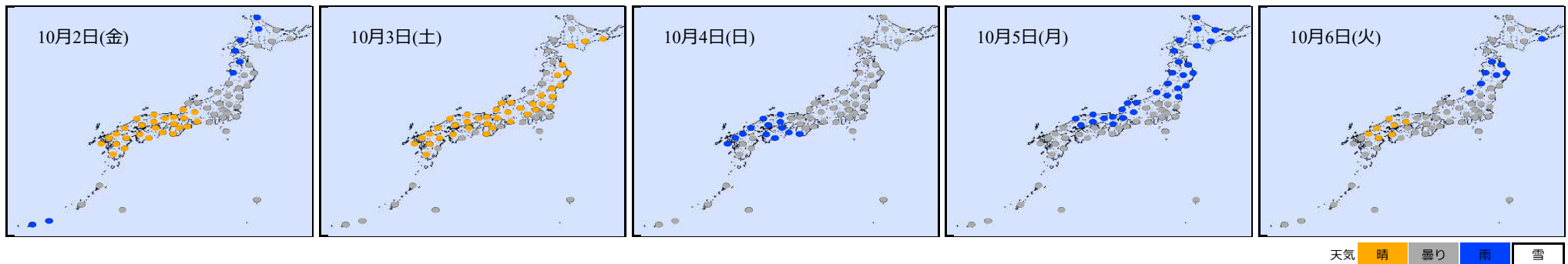
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10月2日頃は、北日本では、発達する低気圧の影響で大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

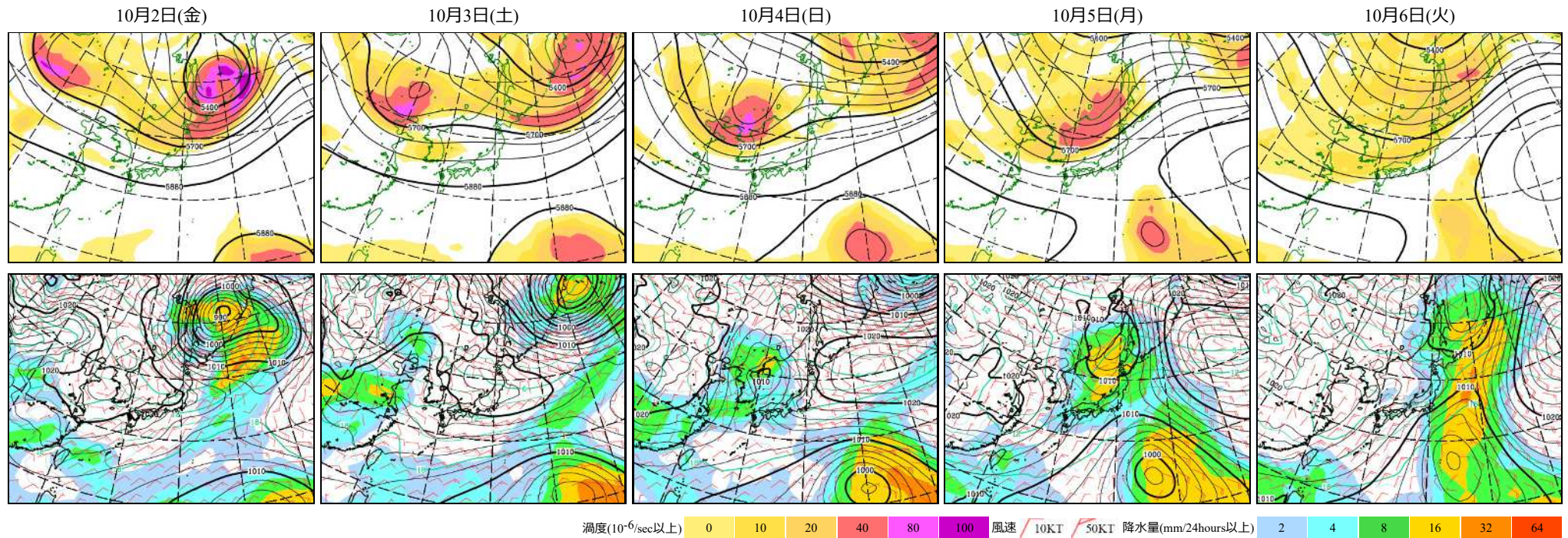
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

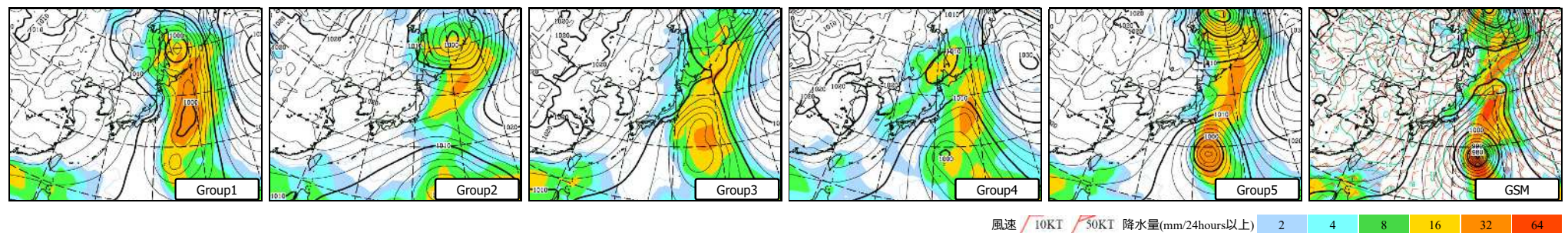


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、10月3日は晴れる所がある。
- 東日本は、2日と3日は曇りや晴れる所が多いが、4日から6日にかけては曇りや雨の降る所が多い。
- 西日本は、晴れや曇りの日が多いが、4日と5日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、2日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月6日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、10月4日から5日にかけて、朝鮮半島付近から日本海に進むトラフが深くなって東進が遅くなり、日本海を北東進する低気圧が強くなって進みが遅くなった。
- 降水確率ガイダンスの値は、4日から5日にかけて、西日本で大きくなった。
- 各モデルともに、4日から5日にかけて日本海からサハリン付近に低気圧が進む予想で揃ってきた。アンサンブルメンバーもこの低気圧を予想するものが多い。
- スプレッドは期間の後半には大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。